の客観的解析例

測器 毛 利 文 郎

357. 大西外史（防衛大）：ミリ波による気温分布の遠隔測定について

358. 浅井辰郎（お茶大）・林　陽生(法政大学大学院)：ビル内の垂直気温分布と外気温との関関

359. 降籏常雄（気研・海洋）：時間移動平均器について

360. 外山芳男（気研・高物）：気象庁露点ゾンデの霜点測定誤差の原因について

361. 後町幸雄・高杉年且（京大・防災研）：雨滴計の記録および解析について

362. 百瀬晴行（東大・理）：相関法による雲の移動ベクトルの推算

363. 高山陽三・村山信彦（気研・衛星）：衛星画像による雲移動ベクトル算出のアルゴリズムのテスト—第2報

364. 小平信彦・村山信彦（気研・衛星）：衛星塔載用レーダについて

365. 内藤恵吉・村山信彦（気研・衛星）：スペース・シャトル塔載ライダーによる対流圏観測の可能性

366. 佐橋　謙（岡山大・教育）・大滝英治（岡山大・教養）：P. Hyson (CSIRO) AMTEX '74における岡大測器とオーストラリア測器との比較

海外だより

GAO 通信第1号

1月の半ばにジュネーブに着任して，1ケ月過ぎました．まだ，かけ出しで様子がよくわからない点も多いのですが，こちらの様子を少しずつお知らせして，GARPのホットなニュースを気象学会員に提供するのも仕事のひとつと考えて，時々書くことにします．本誌のGARP Newsを重複することもあるでしょうが，その点はご諒承下さい．

先ず，組織のことから復習します．ICSU WMOの協力事業として出発したGARPの，最高決議機関はJOC（Joint Organizing Commettee）です．目下，chairmanのStewart以下12人の委員がおり，日本からは東大の岸保さんが入っています．(いずれ後日全メンバーのリストを書きます．)その下に執行機関のJPS(Joint Planning Staff)があり，Döösがdirectorで，その下にBoldirev（ソ）がいます．一方，FGGEなどが具体化してくるにつれて，単なる計画段階から，実施段階に移行してきたため，今年の1月からWMOの中にGAOで(GARP Activities Office)が出来ました．やはりDöösがdirectorです．つまり，JPSはICSUとWMOの両方に同等に属し，GAOは全部WMOに属しdirectorが共通，ということになっています．GAOには，Rubin（米）と新田（日）が入っています．（近くGATE関係で更に2名入る予定）．

こういう組織ですが，仕事の方は専門に応じて実際は決められています．Boldirevは気象衛星の専門家なのでFGGEの観測実施計画全体を担当しており，data managementなど現場のこともやっています．Rubinは各方面への正式の報告書の作成を全部うけおっていて，GARPが公式の場で十分討議されるよう努めています．新田は，数値実験計画全体を担当しており，更にMONEXなどのGARPのSub-programmeの推進も受持っています．従って，どちらかというと計画，企画といったニュアンスが強い仕事です．その他に3人の女性秘書がいます．次信で仕事の内容などお知らせしましょう．

（新田　尚）